

The background of the entire page is a close-up photograph of numerous purple flowers with white centers, likely Anemone pulsatilla. The flowers are in various stages of bloom, with some in sharp focus and others blurred in the background. The colors range from light lavender to deep purple. The overall composition is soft and natural.

IOP
NEWSLETTER
No. 3

公益財団法人
東洋哲学研究所

目次

| | |
|-----------------|-------|
| 学術大会----- | 2-3 |
| 展示会・シンポジウム----- | 4-10 |
| 連続公開講演会----- | 11-12 |
| レクチャー----- | 13 |
| 出版物----- | 14-16 |

「IOP NEWSLETTER」No.3 では、公益財団法人・東洋哲学研究所が 2016 年に推進してきた「研究・調査」「国際学术交流」「研究成果公開」の各事業に関するニュースやトピックスを紹介します。※所属、肩書、講演会タイトル等は当時のものです



シンポジウムで講演するファターリ・モガダム博士

東洋哲学研究所の研究員が研究成果を発表する第 31 回学術大会が 3 月 19、20 日の 2 日間にわたって開催された（会場:19 日 = 創価大学 / 20 日 = 東洋哲学研究所）。

国内外の研究員・委嘱研究員が集う学術大会は、法華経研究をはじめ、宗教間・文明間対話、平和と人権、環境問題などの人類的課題の克服と「地球文明の創出」を目的として行われてきたもの。

19 日午後からのシンポジウム「地球文明の創出——多文化主義を超えて」では、米ジョージタウン大学心理学部教授のファターリ・モガダム博士が登壇。博士は、同大学政治学部・紛争解決プログラムのディレクターも務める。講演では、「普遍的文化主義と人類の道」をテーマに発表を行った。

モガダム博士の講演要旨は以下の通り。

現代のグローバル化によって、言語や文化などローカルなアイデンティティが失われています。これからどのように世界が変革していくのかは、誰も予測できません。

さらに、大陸を超えてグループが速やかに移動できる時代です。中東から短期間に何百万人という人が南欧州に押し寄せ、南米から北米へも何千万人という民衆が移動してきています。

この大規模な民族移動は新たな安全保障の問題を生んでいます。大勢の人が入ってくことでテロにつながると、民主主義の国家は法律を導入して自由を制限する動きをとっています。このように、人々の新しい接触が発生することを大きな脅威とを感じる時代です。

従来は、多文化主義・同化政策で対応してきました。しかし、少数派の人たちは、それを脅威と感じ、国際的なレベルでは、非西洋文化の人々が脅威と見ていたのです。

多文化主義は差異を強調しすぎるあまり、問題があります。だからこそ、普遍的文化主義（オムニ・カルチャリズム）を主張したいのです。

オムニとはオールの意です。すべての人間に光を当てるのです。人間には共通した要素が多くあることに気づくために、私たちは変わらなければなりません。そして、そこから他者に学ぶことを認識するのです。自己批判ができるということは、自分の信念がないということではありません。信念・確信というのは、他者と接する時に共通性を見つけることであり、差異を強調することではないのです。

シンポジウムでは、東洋哲学研究所の石神豊主任研究員による「文化と理念—要請としての『生命の尊厳』」、蔦木文湖委嘱研究員による「ヨーロッパにおける移民・難民問題と多文化主義」の発表が行われ、活発な質疑応答があった。



蔦木文湖 委嘱研究員



石神豊 主任研究員

19日午前には、以下の発表が行われた。

- 牧口常三郎の後期宗教論における自然主義的価値理論について（蝶名林亮 委嘱研究員）
- キリスト教神学における悪の起源（山崎達也 研究員）
- 文明間の共存を目指して—イスラームにおける戦争と平和観—（岩木秀樹 委嘱研究員）
- 教育は新たなグローバル・ヒューマニズムをどう構築できるか—地中海文明は多文化主義を超越するか（フランチェスカ・コッラオ 海外研究員）

20日には、以下の発表が行われた。

- A・J・トインビーと R・G・コリングウッド（春日潤一 委嘱研究員）
- 1928年—1937年北平市社会局と慈善事業—香山慈幼院と龍泉孤児院を中心に（大江平和 委嘱研究員）
- クジャン族王侯像の姿—モンゴル出土刺繍毛織の群像をめぐって（川崎建三 委嘱研究員）
- 狂言の絵画資料研究の総括（藤岡道子 委嘱研究員）

"Buddhist Sutras: A Universal Spiritual Heritage —Manuscripts and Iconography of the Lotus Sutra" Exhibition

東洋哲学研究所が企画・制作する「仏教経典：世界の精神遺産——写本と図像で知る法華経」展の開幕式と記念シンポジウムが4月2日、フランス・パリのユネスコ本部で開催された。同展は、フランス創価文化協会が主催。ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所、インド文化国際アカデミー、中国・敦煌研究院が後援し、フランス・仏教研究所によるパネル監修・図録作成などの協力があった。

同展は、東洋哲学研究所が世界各地で展開する「法華経——平和と共生のメッセージ」展での成果を、さらに仏教全体に広げたもの。仏教流伝の歴史や伝道に生涯を賭した先人の軌跡、長い時を経て現代に蘇った写本・木版本などを、展示パネルや文物などで展示を行った。さらに、東洋古文書研究所が所蔵するオリジナルの写本26点が特別出品された。

オリジナル写本には、1～2世紀に書写されたと推定されるガンダーラ語の樺皮写本である「法



敦煌莫高窟をイメージして制作された展示スペース



来賓とともに盛大に開幕した仏教経典展

句経」、7～8世紀の書写といわれるソグド語「鸚鵡（おうむ）経」などが含まれる。さらに、「ペトロフスキー法華経写本」も出展された。これは、東洋哲学研究所が1998年に開催した「法華経とシルクロード」展で公開されたもの。ペトロフスキー写本は8世紀の書写と推定される。

出展にあたり、東洋古文書研究所のイリーナ＝ポポワ所長は「人類の遺産である写本は、多くの人に共有されなければなりません。専門家のみならず一般の方にとっても、オリジナルを観賞する機会は重要です」と語っている。

開幕式は、同展の記念シンポジウムの後、挙行された。式典では、海外来賓のロケツシュ・チャンドラ理事長、ポポワ所長はじめ、仏教研究所のドミニク・トロティニヨン所長、フランス創価文化協会のジャン＝クロード・ゴベール会長、川田所長らによるテープカットが行われた。

「仏教経典…世界の精神遺産——写本と図像で知る法華経」展

展示会では、インドのスリティ・ズビン・イラニ人的資源開発大臣やユネスコの各国大使なども観賞に訪れた。4月10日まで行われた期間中の来場者は7300人を超え、盛況を博した。



丹念に観賞する来場者

○エドモンド・リール会長（アブラハム友愛協会）

私たちが確信に基づいて平和の精神を訴えていること

は、仏教にも共通するものであり、他者を尊重し、人間の尊厳を守る点では一致しています。この展示は、ヨーロッパの大衆に対して、仏教を知ってもらうだけでなく、より深く人間主義を理解する為のものであると思います。仏教のルーツや発展の歴史を知ることは、ヨーロッパ人にとって、重要な意味を持っています。なぜなら仏教は、ヨーロッパで失われた大切な精神を有しているからです。今、宗教の名前を借りたテロリストの動きがあります。この危機の社会にあって、自他共を尊重し、憎悪を乗り越える鍵は仏教にあると思うのです。

○トロティニヨン所長（仏教研究所）

フランスでは、仏教の研究は非常に盛んですが、実際に写本の現物を見ることはありませんし、その歴史もほとんど知られていません。東洋哲学研究所のおかげで、フランスで初めて極めて貴重で美しい作品を、この目で見ることができました。パリと法華経の関係は非常に深いといえます。つまり、ビュルヌフによる法華経の翻訳が始まった場所であるからです。展示会は、その意味を再認識することができる機会なのです。

○ルチラ・カンボージュ大使（ユネスコ・インド政府代表部）

ユネスコで、このように素晴らしいシンポジウムと展示が実現した意義は大きいと思われます。ユネスコの各国大使にも話をし、一人でも多くの大使に見てもらいたいと思います。

◆企画・制作：東洋哲学研究所 ◆主催：フランス創価文化協会

◆後援：中国・敦煌研究院、ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所、インド文化国際アカデミー

◆協力：仏教研究所

◆会場：国連・ユネスコ本部（フランス・パリ）

◆開催日：2016年4月2日～10日

「法華経——平和と共生のメッセージ」展



国内外からの来場者で賑わう韓国展

韓国展

韓国での「法華経——平和と共生のメッセージ」展の開幕式が9月21日、ソウル特別市の池田記念講堂で行われた。法華経展は、同国で世界13カ国・地域目の開催となった。

東洋哲学研究所とともに、韓国・中央日報、韓国 SGI が主催した同展は、インド文化国際アカデミー、中国・敦煌研究院、ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所のほか、韓国国内から、政府・文化体育観光部、ソウル特別市などが後援団体となった。

開幕式には、インド文化国際アカデミー理事長のロケッシュ・チャンドラ博士、同展実行委員長を務める李寿成元首相、慶南大学の朴在圭総長、韓国宗教学会の金在榮会長はじめ、韓国の政界、財界、教育・学術界、マスコミ、韓国 SGI の代表メンバーなど約2500人が出席し、盛大にテープカットを行った。その後、李寿成元首相のあいさつ、ロケッシュ・チャンドラ博士による記念講演などが行われた。

今回の展示会には、過去最大となる200点を出品。なかでも、韓国国内の博物館の特別協力により、国宝1点（白紙墨書妙法蓮華経。湖林博物館所蔵）と日本の重要文化財に相当する宝物2点（紺紙銀泥妙法蓮華経、妙法蓮華経巻5-7。国立中央博物館所蔵）の複製の展示が実現した。

仏教流伝の歴史を紹介するコーナーでは、新たに韓・朝鮮半島での法華経受容のパネルを作成。世界遺産・仏国寺に建つ「二仏並座」の象徴である「釈迦塔」「多宝塔」や、同じく世界遺産で高麗八万大蔵経を所蔵する海印寺などを通して、「韓・朝鮮半島と法華経、についての解説を行った。

その他、ペトロフスキー写本、ギルギット写本などの法華経写本（複製）や、ガンダーラ語の「法句経」（複製。1～2世紀書写）をはじめ、世界の学術機関から贈られた貴重な文物などを公開した。敦煌莫高窟のコーナーでは、「法華経変」が描かれた第85窟を模した展示スペースが設けられた。

開幕式の模様は、国営放送KBS、中央日報、毎日経済、天地日報などが相次いで報道。12月21日までの期間中、13万6000人を超える観賞者が訪れた。

韓国展には、来賓から次の感想が寄せられた。

○ロケッシュ・チャンドラ 理事長（インド文化国際アカデミー）

韓国がその存在を永遠としたのは、仏教が韓・朝鮮半島に新たな意味を与えた 1600 年前であり、その時、仏教が朝鮮の文明となったのです。人間が作り出した高潔に生きる願望や道徳の体制は、生き生きとした目に見える、社会的そして文化的秩序の存在を形成していきました。朝鮮文明は仏教のもとで、絶頂期に達したのです。

○李寿成 元首相

法華経の香ばしい平和と共生のメッセージあふれる展示会です。東洋哲学研究所の創立者である池田 SGI 会長は、平和主義者であり、稀有な存在です。そして、韓国の人々に深い愛情を持っておられ、何より韓国への深い洞察を持っている方です。今回の「法華経——平和と共生のメッセージ」展の開催を通して、私たちは力を合わせて、全ての人々の希望となり、平和のために尽くしていきたいと思います。

- ◆企画・制作：東洋哲学研究所
- ◆主催：東洋哲学研究所、中央日報、韓国 SGI
- ◆後援：ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所、敦煌研究院、インド文化国際アカデミー、文化体育観光部、ソウル特別市、駐韓インド大使館、韓国芸術文化団体総連合会、韓国記者協会、国際ペンクラブ韓国本部
- ◆会場：韓国 SGI・池田記念講堂（ソウル）
- ◆開催日：2016年9月21日～12月21日



ロケッシュ・チャンドラ理事長、李元首相、チャンドラ理事長、中央日報の宋弼鎬副会長らがテープカット

「法華経——平和と共生のメッセージ」展



国立サンマルコス大学の
首脳らによるテープカット

ペルー展

南米ペルー初開催となる「法華経——平和と共生のメッセージ」展が 11 月 21 日、首都リマ市の国立サンマルコス大学で開幕した。ペルー展は、世界 14 カ国・地域目の展示会となった。同大学は、1551 年に創立された南米最古の学府である。展示会は、東洋哲学研究所が企画・制作し、ペルー-SGI の主催で行われた。

サンマルコス大学文学・人間科学学部棟を会場とした展示会では、各種の言語に翻訳された法華経写本（複製）や、仏教流伝の歴史を紹介するパネル、これまで東洋哲学研究所が推進してきた「法華経写本シリーズ」などが公開された。

- ◆ 企画・制作：東洋哲学研究所
- ◆ 主催：ペルー-SGI
- ◆ 後援：国立サンマルコス大学文学・人間科学部、ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所、敦煌研究院、インド文化国際アカデミー
- ◆ 会場：国立サンマルコス大学文学部棟（リマ）
- ◆ 開催日：2016 年 11 月 21 日～26 日

開幕式は、サンマルコス大学文学・人間科学学部のカルロス・ガルシア学部長、リリア・ジャント副学部長、ミゲル・ポロ教授、同大学哲学専門学校ホルヘ・キスペ校長をはじめ、教員・学生ら 100 人が出席し、盛大に行われた。

式典では、ミゲル・ポロ教授が登壇し、仏教は最も重要な人生哲学の 1 つであると述べ、「仏教の歴史を理解することは、アジアの歴史を理解することに繋がるのです」と語った。そして、「本展は歴史的観点に留まらず、文学的にも精神的にも価値の高い法華経のメッセージを伝えている展示会です」とあいさつした。

また、カルロス・ガルシア学部長は「法華経展をこの大学で開催することができ、心から感謝したい。歴史あるペルーという国にとって、他の文明との対話はとても重要なことです。仏教は間違いなく、宗教界の流れとなり、人類の根源的な部分で要となる思想となってきた教えです」と述べた。

同展は、11 月 26 日まで開催され、約 1300 人が観賞に訪れた。



ブラジル、アルゼンチンに次ぐ南米開催のペルー展

「仏教経典：世界の精神遺産

——写本と図像で知る法華経」展

記念シンポジウム「仏教経典の主な教えの普及と受容」



ユネスコ本部・大会議室で開催されたシンポジウム

「仏教経典：世界の精神遺産——写本と図像で知る法華経」展の記念シンポジウム「仏教経典の主な教えの普及と受容」が4月2日、国連・ユネスコ本部で以下の内容で行われた。

<第1セッション「中東にいたるまで」>

- 法華経の比喻と福音書の比喻、交差する点

パリ・カトリック学院 ドニ・ジラ名誉教授

<第2セッション「インド・中央アジアにおいて」>

- 法華経とインド

インド文化国際アカデミー ロケッシュ・チャンドラ理事

◆企画：東洋哲学研究所

◆主催：フランス創価文化協会

◆後援：中国・敦煌研究院、ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所、インド文化国際アカデミー

◆協力：仏教研究所

◆会場：国連・ユネスコ本部（フランス・パリ）

◆開催日：2016年4月2日

- 20世紀初頭の中央アジアにおけるロシア探検隊と写本の発見
ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所
イリーナ・ポポワ所長

<第3セッション「中国において」>

- 中国の仏典翻訳者について
フランス国立実践高等研究学院 シルヴィ・ウロー講師

- 中国における法華経思想の受容
東洋哲学研究所 菅野博史主任研究員

- セッション総括

フランス国立科学研究センター ポール・マニヤン名誉主任研究員

<第4セッション「日本において」>

- 蓮華と浄土

ローザンヌ大学 ジェローム・デュコール講師

- 日本文化における法華経

コレージュ・ド・フランス ジャン＝ノエル・ロベル教授

世界各地の学識者ら300人が参加し、活発なディスカッションも行われた



オックスフォード仏教学研究soと 共同シンポジウム



オックスフォード仏教学研究so
との2度目となるシンポジウム

オックスフォード仏教学研究soは、オックスフォード大学に認証された研究機関。2004年に設立され、仏典研究をはじめ、理論と実践も研究領域としている。

同研究所と東洋哲学研究所は2012年、学術交流協定を締結。2014年3月の第29回学術大会・シンポジウム「人類の未来と仏教の可能性」では、仏教学研究soのリチャード・ゴンブリッチ所長、スレン・ラーガヴァン研究員による講演・ディスカッションを行った。さらに、これまで学術誌の交換や研究論文の寄稿などの交流を進めてきた。

4月6、7日の両日に渡った今回の共同シンポジウムは2014年と同じく「人類の未来と仏教の可能性」をテーマに開催した。シンポジウムでは、ゴンブリッチ所長があいさつし、「人類の存続に寄与する仏教の潜在力を東哲の皆さんと論じ合いたい」と強調した。

両研究所からは、次の論考が発表され、活発なディスカッションが行われた。

<第1セッション「仏教と行動」——女性と平和の問題>

- 自由の声：初期仏教の尼僧の詩歌における友情、信頼、そして解放
オックスフォード仏教学研究so サラ・ショー研究員
- 「核兵器のない世界」構築への女性の役割
東洋哲学研究所 栗原淑江主任研究員

<第2セッション「仏教と実用主義」——仏教による「市民の社会的目的への奉仕（ジェンダー、人権、倫理）」>

- マインドフルネス瞑想と社会変革：セラピーから智慧と倫理学へ
「職場でマインドフルネス・プロジェクト」元代表 マーク・レオナルド氏
- 災害と仏教団体の活動
東洋哲学研究所 大西克明研究員

<第3セッション「仏教と現代科学」——仏教実践と心身の健康>

- 上座部仏教の瞑想における慈悲の実践
オックスフォード仏教学研究so カマイ・ダマサミ研究員
- 医療倫理と仏教——尊厳死、植物状態を焦点に
東洋哲学研究所 川田洋一所長

◆主催：オックスフォード仏教学研究so、
東洋哲学研究所

◆会場：オックスフォード大学ウォルフソン・
カレッジ（イギリス）

◆開催日：2016年4月6、7日



- ◆講 師：加藤 久典氏（中央大学教授）
- ◆開催日：2016年10月3日
- ◆会 場：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター（東京・新宿区）
- ◆テ – マ：イスラームの多角的理解
～インドネシアのムスリムとの対話～



加藤氏は、宗教社会人類学、比較文明学を専門とし、2012年には、トインビータルブット賞（国際比較文明学会賞）を受賞。現在、国際比較文明学会副会長を務める。

講演では、物事には「事実」と「真実」の二つの要素があるとし、イスラームの多角的理解とは隠された部分を理解することであり、こうした態度があってはじめて、持続可能な未来と宗教へと繋がっていくのではないかと論じた。また、ムスリムが行う六信五行の本義を通し、「特にムスリムにとって大事な考えがジハードです。これには、物理的な争いである小ジハードと、精神的な戦いである大ジハードの二つがあります。大ジハードは、より良いムスリムになるための闘いであります。戦闘的なイメージはあくまでも、ステレオタイプ化されたもので、本来、“異教徒は大切にしないとイケない、と教えているのです”と語った。

- ◆講 師：川窪 啓資氏（麗澤大学名誉教授）
- ◆開催日：2016年10月25日
- ◆会 場：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター（東京・新宿区）
- ◆テ – マ：トインビーと宗教



川窪氏は、比較文明学、アメリカ文学を専門とする。麗澤大学講師の際、同大学の廣池千太郎学長（当時）の通訳として、歴史学者アーノルド・トインビーの自邸を訪問してより、トインビーの『歴史の研究』の読解・研究、比較文明学の発展に尽力してきた。

講演では、「トインビーは神という抽象的な存在が暗闇の中にあるようなもので分からないと言い、『究極的精神的実在』を信じるようになりました。イギリス国教会の家に生まれながら、他の人に宗教を語るために、カトリック、プロテスタントはじめ、ユダヤ教、儒教、仏教を幅広く学んでいきました。つまり、比較文明から、その文明の中核である宗教へと向かっていき、何が宗教の本質なのかを探究していったのです」と言及。トインビーの研究態度の中心に、“文明は宗教によって生まれている”“文明と宗教の研究は一体である”という考えがあったと強調した。



- ◆講師：加藤 尚武氏（京都大学名誉教授）
- ◆開催日：2016年11月17日
- ◆会場：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター（東京・新宿区）
- ◆テーマ：持続可能な未来と宗教



哲学、生命倫理学、環境倫理学を専門とする加藤氏の講演では、「今、私たちの社会は、恐ろしいほどにエネルギーを消費して生きています。石油が枯渇し、水が無くなったらどうなるのか。そして、生物の種が減少していくという問題もあります。こうした状況によって、人間が地球に住めなくなってきたのです。今あるものを大切に、簡単に消費することなく循環をさせていくことができれば、持続可能に繋がっていけると思いますが、それをどう実現していくかが大切です」と述べた。

そして氏は、こうした現状を前にした宗教の役割について言及。仏教やキリスト教などの宗教が本来、自然と調和し、自然を守ることを教えていると論じ、人間の欲望が拝金主義によって増長していることを強調。「人間の欲望は自然に持っていたものだと思いますが、お金はそうではありません。不自然に欲望を増長させる存在であり、それを捨てることは非常に難しい。だからこそ、ここに宗教の役割があるのです」と語った。

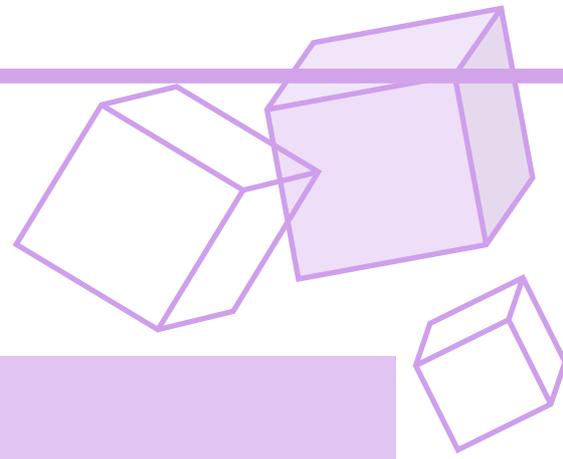
- ◆講師：氣多 雅子氏（京都大学大学院教授）
- ◆開催日：2016年11月30日
- ◆会場：梅田スカイビル（大阪・北区）
- ◆テーマ：大地の思想と現代世界



氣多氏は、2014年より、日本宗教学会の会長に就任。宗教哲学、宗教学を専門としている。

講演では、文学や宗教等において重要な概念として捉えられる「大地」について触れ、「大地は収穫の土台であり、ギリシャや日本の神話でも取り上げられる信仰の対象でもあります。それは、どこまでも広がるイメージとともに、特定の地域を指す言葉です」と語り、あらゆるものを生み出す究極の母体が大地であり、生と死の繋がりの場所であると述べた。氏は、仏教学者・鈴木大拙の書籍等を通し、日本の宗教性や靈性に言及。「大地と聞くと過去のノスタルジーを感じることもありますが、現代では、その第一義的な意味は地球にあると考えます。科学の発展によって、大地は一つの天体としての地球と捉えられるようになりました。大地はどこまでも続くものであっても、地球にはいつか寿命が訪れるのです」と語った。

レクチャー



2月23日(火)
講 師：鶴岡 賀雄氏
 東京大学大学院教授
テーマ：十字架のヨハネの神秘思想
 ——カトリック的靈性の一極点

6月14日(火)
講 師：川窪 啓資氏
 麗澤大学名誉教授
テーマ：人間トインビー



7月12日(火)
講 師：ステファン・ピーター・グレイス氏
 大正大学非常勤講師
テーマ：鈴木大拙の思想

7月26日(火)
講 師：温 憲元氏
 広東省社会科学院元副院長
テーマ：中国文化の国際的な影響力と
 その方向



出版物

東洋学術研究 第55巻 第1号 (通巻176号) 定価: 1,238 円+税

主な内容



- 特集1「地球文明の創出—多文化主義を超えて」
 - 第31回学術大会より
 - 普遍的文化主義と私たち人類の道
 - ……………ファターリ・M・モガダム (米ジョージタウン大学教授)
 - 文化と理念—要請としての生命尊厳
 - ……………石神豊 (東洋哲学研究所主任研究員)
 - ヨーロッパにおける移民・難民問題と多文化主義
 - ……………篤木文湖 (東洋哲学研究所委嘱研究員)

- 特集2「地球文明への道 II」
 - 連続公開講演会より
 - 知恵と自己—仏教とキリスト教との対話…稲垣良典 (九州大学名誉教授)
 - 地球的危機における公共哲学の役割…山脇直司 (東京大学名誉教授)
 - 文明の転換期—人類の過去と未来
 - ……………伊東俊太郎 (国際比較文明学会終身名誉会長)
 - 21世紀を築くカーソクラテス、カントの英知に学ぶ
 - ……………石神豊 (東洋哲学研究所主任研究員)

東洋学術研究 第55巻 第2号 (通巻177号) 定価: 1,238 円+税

主な内容

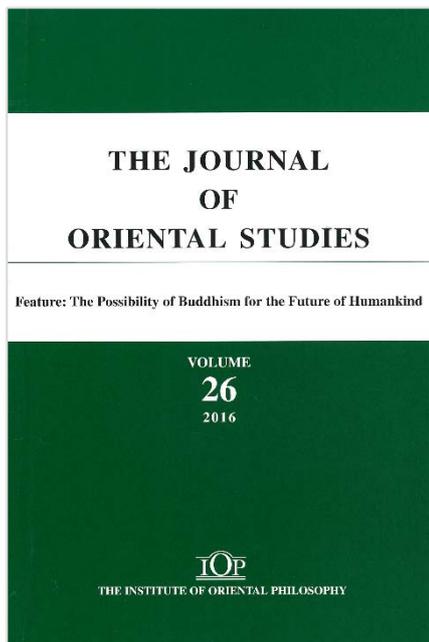


- 特集1 宗教間対話シリーズ「カトリックとの対話」
 - 「信じる」ことと「知る」こと—アウグスティヌスを中心に—
 - ……………佐藤 直子 (上智大学教授)
 - 信仰の合理性—現代カトリシズムの公共性をめぐって
 - ……………岩本 潤一 (日本聖書協会翻訳部主任)
 - 根源悪的現象から他者の地平に向けて
 - ……………宮本 久雄 (東京純心大学教授)
 - トマス・アキナスにおける神学と哲学
 - ……………芝元 航平 (上智大学非常勤講師)
 - 十字架のヨハネの神秘思想—カトリック的靈性の一極点—
 - ……………鶴岡 賀雄 (東京大学大学院教授)

- 特集2 「人類の未来と仏教の可能性」
 - オックスフォード仏教学研究所との第2回共同シンポジウムより

- 特別公開講演会より

The Journal of Oriental Studies vol. 26 定価：2,000円+税



Main Articles

Feature: The Possibility of Buddhism for the Future of Humankind

From the Second Symposium with the Oxford Centre for Buddhist Studies

- Opening Address..... Richard Gombrich
- Voices of freedom: friendship, trust and liberation in the poems of early Buddhist nuns..... Sarah Shaw
- Women’s Roles in a World Without Nuclear Weapons..... Toshie Kurihara
- Mindfulness Meditation and Social Change: from Therapy to Wisdom and Ethics Mark Leonard
- Buddhist Organizations and Their Response to Natural Disasters Katsuaki Onishi
- The Practice of Compassion: A Brief Reflection on Some Theravada Buddhist Meditation Traditions.....Khammai Dhammasami
- Medical Ethics and Buddhism—A Focus on Euthanasia and Death with Dignity Yoichi Kawada

Feature 2: Creation of a Global Civilization—Transcending Multiculturalism

From the Symposium in conjunction with the 31st Annual Conference of the IOP

- Omniculturalism and Our Human Path.....Fathali M. Moghaddam
- Culture and Ideal—The Dignity of Life as a Postulate Yutaka Ishigami
- Issue of Immigration and Refugees and Multiculturalism in EuropeFumiko Tsutaki

韓国語版『ガイドブック 法華経展——平和と共生のメッセージ——』



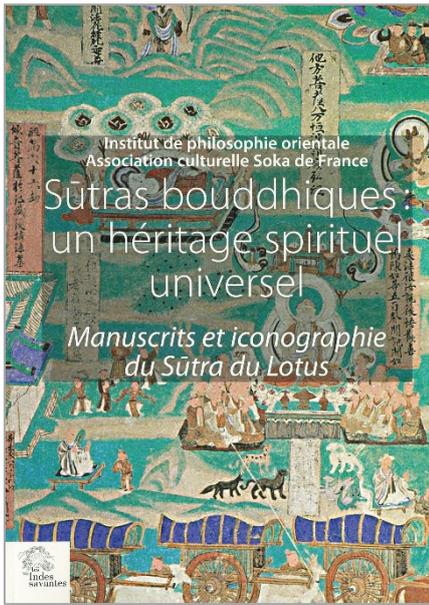
発行：和光新聞社（韓国）

東洋哲学研究所が企画・制作する「法華経——平和と共生のメッセージ」展の内容を紹介する『ガイドブック 法華経展——平和と共生のメッセージ——』の韓国語版。韓国の和光新聞社が翻訳・編集を行い、同社より刊行。

同書は、日本語版に準じた内容を収録。9月21日に開幕した「法華経——平和と共生のメッセージ」展・韓国展（～12月21日）で公開された韓国の「国宝」「宝物」にあたる法華経文物（複製）についての解説、同国における法華経受容の歴史などを紹介する。

Publications

「仏教経典：世界の精神遺産——写本と図像で知る法華経」展カタログ

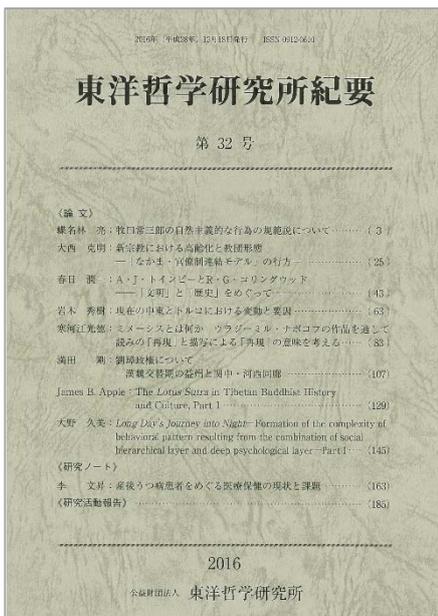


発行：レ・インド・サヴァント社（フランス）

東洋哲学研究所が企画・制作をする「仏教経典：世界の精神遺産——写本と図像で知る法華経」展を紹介するカタログ（フランス語）が、フランスのレ・インド・サヴァント社から刊行。

これは、4月2日～10日に、パリ・ユネスコ本部で開催された同展に合わせて刊行されたもの。オールカラーによる展示品の解説とともに、仏教研究所のドミニック・トロティニオン所長、フランス国立図書館のナタリー・モネ主任学芸員、中国学研究のクリスチーナ・コントレール氏らによる寄稿を収録。

東洋哲学研究所紀要 第32号（非売品）



《論文》

- 牧口常三郎の自然主義的な行為の規範説について…………… 蝶名林 亮
 - 新宗教における高齢化と教団形態
—「なかま・官僚制連結モデル」の行方—…………… 大西 克明
 - A・J・トインビーとR・G・コリングウッド
——「文明」と「歴史」をめぐる——…………… 春日 潤一
 - 現在の中東とトルコにおける変動と要因…………… 岩木 秀樹
 - ミメシスとは何か ウラジーミル・ナボコフの作品を通して
読みの「再現」と描写による「再現」の意味を考える…………… 寒河江 光徳
 - 劉璋政権について—漢魏交替期の益州と関中・河西回廊…………… 満田 剛
 - The Lotus Sutra in Tibetan Buddhist History and Culture, Part 1
…………… James B. Apple
 - Long Day's Journey into Night
——Formation of the complexity of behavioral pattern resulting from the combination of social hierarchical layer and deep psychological layer—Part I…………… Kumi Ohno
- 《研究ノート》
- 産後うつ病患者をめぐる医療保健の現状と課題…………… 李 文昇
- 《研究活動報告》



公益財団法人 東洋哲学研究所

〒192-0003 東京都八王子市丹木町 1-236

Tel: 042 (691) 6591 Fax: 042 (691) 6588

メールアドレス: iop_info@iop.or.jp

日本語サイト: <http://www.totetu.org/>

英語サイト: <http://www.iop.or.jp/>



公益財団法人 東洋哲学研究所

THE INSTITUTE OF ORIENTAL PHILOSOPHY